

## 本学のキャリア教育に関する活動報告

### —現代G P 採択事業の取組を踏まえて—

#### YNU Career Education Report

横浜国立大学 大学教育総合センター

居郷至伸

キーワード: キャリア教育、キャリアデザインファイル、自律性

Keywords: career education, Career-design File, autonomy

#### Abstract

The aim of the career education program is to expose students to the diversity of career opportunities in existence so that they may be fully aware of their options and proactively choose a career path. YNU has also been actively promoting it. We have provided a variety of experiences that satisfies students' various needs, both on and off the campus. This report gives an overview of the YNU Career Education Program and an evaluation of its effectiveness.

#### 1. はじめに

横浜国立大学は、平成 19 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代G P) のテーマ 5 「実践的キャリア教育の推進」の選定を受け、3 カ年の大学改革推進事業等補助金(大学改革推進事業)により、教育改革事業を推進してきた。本学は教育人間科学部、経営学部、経済学部、工学部(平成 23 年度より理工学部へ改編)の計 4 学部によって構成されており、各学部主導で実践性を重視した高度な技能や知識を学生が習得すべく、教育活動を展開してきた。加えて、新たな知識の創造と活用が社会発展の基盤となる知識基盤型社会に対応した教育を探求すべく、キャリア教育に取り組むことで、各学部が連携協働して学生の問題発見・解決能力や創造性、自律性を涵養していき、時代の要請に応える教育活動を展開する基盤づくりに着手することとなった。

本稿では、現代G P採択期間中の実践および採択期間終了後の自主事業となった平成 22 年度からの活動を踏まえて、本学のキャリア教育に関する取組についてのこれまでの活動報告をする。

## 2. 現代G P採択事業期間中の活動

本学では、現代G P採択前の平成 18 年度に「キャリアデザインファイル」を開発し、学生が在学期間を通じて自己の能力開発および学習状況を適宜確認しつつ自らの人生設計のあり方を検討し、実行できる力を涵養するためのツールと位置づけた。キャリアデザインファイルは、学生が自律的に育つ手助けとなるように設計したものである。設計上特に力点を置いた点として、自ら問題点を発見し、そしてそれを解決する手段を考えて定め、実行する、PDCA(立案(Plan)―実行(Do)―点検(Check)―行動(Action))のサイクルを実現することにある。キャリアデザインシートの使用に際し大切なことは、学生が自分自身と正直に向き合いながら自己省察を交えながら記すことである。

現代G Pの採択を受けてキャリア教育を推進することを通して教育改革事業を行う目的は、このキャリアデザインファイルを学生に提供しつつ、学生と教職員が一体となった協働方式を通じて、自律的な学生生活形成に向けた全学的仕組みを構築することにあつた。

### 2-1 採択事業初年度の内容

実施初年度である平成 19 年度は、キャリア教育を体系的に実施するための組織体制を構築し、実践的キャリア教育プログラムを開始する仕組みづくりに力点を置いた。具体的には、学生が自律的に継続して作成するキャリアデザインファイルをツールとして用い、キャリア教育科目の開設や、各学部と全学の協働に基づく学生・教職員・社会を有機的に組み合わせることができる実践的キャリア教育体制を整えることにあつた。

構築した体制としては、大学教育総合センター長（キャリア教育推進部門長）の他、特任教員（本教育改革事業推進のため平成 19 年 12 月 5 日より新規採用）、各学部（工学部、教育人間科学部、経営学部、経済学部）教員から選任された委員、キャリア相談員、教務課・学生支援課スタッフおよび事務補佐員により構成される、キャリア教育推進部を大学教育総合センター内に設けた。そして、各学部の教育活動と全学の活動を検討、調整するため全学の教育に関わる委員から構成されるキャリア教育推進部会を設けた。この推進体制を基盤として、次に示す内容を、学生と教職員の協働により実施した。

まず、新入生にキャリアデザインファイルを配布し、ファイルの活用に関する支援（オリエンテーションで説明、講座開催等）を行い、キャリア教育科目として、「リーダーシップ論」「自己啓発論A（平成 20 年度からは「社会の変化と自己啓発（A）」に科目名変更）」「自己啓発論B（平成 20 年度からは「同（B）」に科目名変更）」の新設の他、学部のキャリア教育科目の整備をはかった。また、キャリア教育履修案内（「私たちのキャリアデザイン」）の作成と改良、キャリア相談の実施、キャリア教育ホームページの開設・運営を通じてキャリア教育に関する情報の発信を行った。これらの取組を通じて、本学のキャリア教育は、全学と各学部の特徴を活かしつつ協働して推進していく基盤を整えていった。

## 2-2 平成 20 年度の活動内容

初年度は上述した「実践的キャリア教育」の仕組みと基盤を完成させることにあったが、採択 2 年目の平成 20 年度は本教育改革事業の本格的な実施年度に該当し、この事業の実践上の特色である「キャリアデザインファイル」の活用の促進に向けたキャリア教育講座の提供、「キャリア相談週間」の実施および利用実績の向上に向けての工夫、「キャリア教育科目」の新規開講など、学生にとって自律的なキャリアデザインを描いていくための実践および改善に着手した。また、初年度より実施の学部主導方式のキャリア教育（教育人間科学部：チュートリアル教員の決定・チュートリアルの実施、学外実習、特別講演、文化交流の実施。経済学部：キャリア形成プログラムの体系化（「キャリア形成論」「社会との連携講義」などの継続的開講、実践就職イベントなど。経営学部：ビジネス・キャリア教育プログラムの拡充（職業観形成に資する授業の拡大や、マイ・プロジェクト・ランチャー、フィードバックを伴う実践的インターンシップ（専門教育科目として）など。工学部：平成 18 年度開講の先端物理工学概説に加え、物理工学と先端技術の開講、専任教員と企業講師による特別講演、学生との個別面談の定期的な実施を踏まえたキャリアデザインファイルに立脚した独自のキャリア形成指導システムの開発。）を、キャリア教育推進部会を中心として全学的にサポートしていった。また、平成 20 年度は、採択事業の中間年であったので、ここまでの実施状況と自己点検、自己評価を踏まえて中間報告書を作成し、外部評価委員からの中間評価を受けて実践的キャリア教育の実施とその結果に基づく改良点の把握を行った。

## 2-3 最終年度の活動内容

最終年度にあたる平成 21 年度においては、これまで実施した事柄を継続して行うとともに、上述した外部評価委員からの中間評価と、前年度までの 2 カ年の取組に対する反省を踏まえ、まず、キャリアデザインファイルの活用事例の収集を「キャリアデザインファイル活用コンテスト」を通じて実施した。学生の応募作品の中には、ファイルの具体的な活用事例や学生の目線からの改良に向けての提言もあったが 5 点を奨励賞として表彰し、翌年度のキャリアデザインファイルに掲載することとなった。これらの作品は、本事業が推進している実践的キャリア教育に対する学生からの率直な反応、評価を映し出しているといえるであろうし、本事業が終了した後も継続して取り組んでいくキャリアデザインファイルの促進に向けた有益な情報となる。最終年度においてはまた、キャリア教育関連の案内用看板の複数設置、新聞記者を招いたキャリア教育講演会の実施、キャリア説明会の充実など、キャリア教育推進部主催のイベントが学生にとって身近となるような工夫にも一層の力を注いだ。そして、平成 22 年 1 月 6 日に、11 大学 63 名の参加を得てキャリア教育シンポジウム（「横浜・協働方式による実践的キャリア教育－「キャリアデザインファイル」をつなぎ手としたキャリア・リーダーシップ力育成教育の構築－」）を開催し、学

内外へ本教育改革事業の成果を発信し、併せて外部評価委員からの最終評価を受けた。

### 3. 採択事業の成果と事業終了後の取組

ここまで述べてきた、現代G P採択事業期間中の本学におけるキャリア教育推進事業の活動を通じて、以下のような成果を見出すことができる。まず、キャリア教育推進部の設置に基づく運営体制のもと、本学教員の本教育改革事業への取組に対する理解と協力を得るための取組みを、全学部の教職員に向けたFD活動や学内シンポジウムでの講演等を通じて展開することで、キャリア教育の充実、学生の個別のニーズを踏まえた働きかけを充実させることができた。そして、このような学内のコンセンサスを基盤にして、新入生にキャリアデザインファイルを配布することで、新入生が自律的に学生生活を送れるような支援が可能となり、キャリア教育履修案内の改良、講座の実施により、学生が自身のキャリアをどのように考えているか、具体的なキャリアデザインファイルの使い方の事例という形で示すことができるようになったといえる。

この推進事業は、採択期間が終了した後の本学におけるキャリア教育の基盤整備という位置づけが与えられており、ここまで記してきた採択事業の実施内容を踏まえ、平成22年度以降も、キャリア教育推進部の専任講師の雇用、キャリアデザインファイルの新年度入学生へ継続配布を行うことで、支援期間中に実施したコンテンツの継続・発展が可能となっている。つまり、キャリアデザインファイルの配布に必要な経費を含め、キャリア教育推進部を束ねる大学教育総合センターに対する財政的措置をすることで、採択事業終了後のキャリア教育推進に向けたハード、ソフト両面での基盤を整えたことを意味する。

平成22年度の事業では、これまでの事業内容を継承しつつも、この基盤体制下で就職指導との連動性を持たせ、入学から卒業に至るまでのスパンのなかで学生が自律的な生き方の探求・形成を促進できるような、多角的な視点と切り口を踏まえたプログラムの提供に努めた。具体的には、「キャリアの学校」、「キャリアデザイン講座」、「キャリア教育講演会」を挙げるができる。

「キャリアの学校」では、就職活動を行う本学の3～4年生の理系、文系それぞれの学生を対象として、株式会社リクルートが本学向けに独自にカスタマイズしたプログラムに基づき、就職活動に向けての準備や、働くということはなにか、といったテーマ設定のもと、参加学生の個人ワークやグループワークを行った（理系学生向けは、平成22年7月10日に工学部講義棟C-301教室に於いて18名参加）、文系学生向けは、同年7月24日に教育文化ホール大集会室にて33名参加）。

「キャリアデザイン講座」は、キャリアデザインファイルを学生が実際に使用しながら、学生が自身の生き方や将来のキャリア展望を考えるようなプログラムを、株式会社毎日コミュニケーションズの提供により2回にわたり実施したものである（参加学生60名）。初回は、平成22年12月20日に教育人間科学部7号館301教室に於いて実施し、担当講師

## —現代G P採択事業の取組を踏まえて— 居郷至伸

による講義（「社会で求められる人物像とは？」）および、グループワーク（「社会から知ること」）そして、自己診断テストの受検があった。第2回（平成23年1月17日、会場は初回と同じ）は、自己診断テストの結果の返却、結果の分析の仕方について、「今後身に付けたいスキルとは」、「大学生活で築くことのできるキャリア」という観点を踏まえながら、キャリアデザインファイルの活用の仕方を担当講師からのレクチャー、参加学生のディスカッションを交えて実施した。

「キャリア教育講演会」は、附属図書館と共催で、2回実施している（参加学生は合計で約100名）。まず、平成23年1月19日には、附属図書館メディアホールにおいて、朝日新聞、時事通信社、読売新聞の横浜総局長・支局長、日本新聞教育文化財団NIEコーディネーターを招聘し、なぜ新聞記者という仕事を選んだのか、そこで経験したことは何だったのか、今学生に伝えたいことなどを交えた講演と参加学生との質疑応答が行われた。続けて平成23年1月26日には、教育人間科学部6号館101教室にて、NHK青少年・教育番組部専任ディレクター 宇治橋 祐之氏を招聘し、なぜテレビという世界を選んだのか、テレビ番組の制作とはどのような仕事なのか、そして、その意義とは何か、といった観点を踏まえた講演と参加学生を交えたフリーディスカッションを行っている。

なお、平成22年度はさらに、履修指導と就職指導の連動性を高める活動として、就職情報産業のプログラムも活用しながら、就職支援活動の一環として提供し、教職員向けにもキャリア相談等を通じて収集した本学学生の動向についての情報提供を踏まえた講座を実施している（同年7月20に教育文化大集会室にて28名が参加）。

#### 4. 今後に向けて

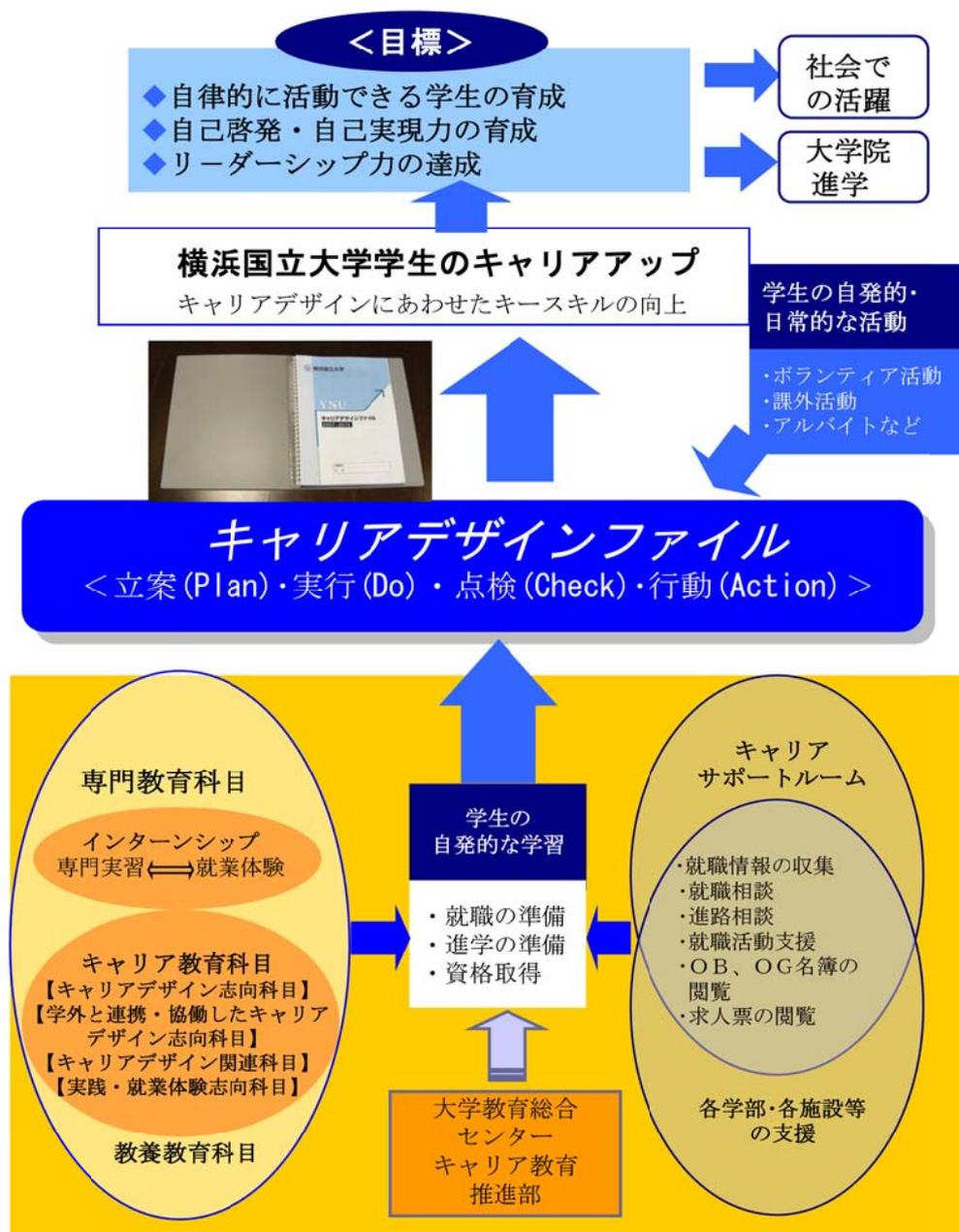
以上、本学のキャリア教育の実践について、現代G Pでの採択事業内容を踏まえて報告をしてきた。学生が学びに意義を見だし、自律的にキャリアをデザインしていくための働きかけを、大学が行っていく仕組みは次頁のような流れとして図示することができる。

採択事業の実施を契機に、横浜国立大学が「キャリア教育」として行うべきことの礎を作り、これから継承、発展させていくなかで、大学教育のあり方も不断に問い直すことが求められているといえるだろう。たとえば、横浜国立大学の教育カリキュラムとして1, 2年時の学生に対して最低限これだけは習得し、以降のキャリア形成につながるベースを構築する方法として教育体制の整備を図ったうえで、専門課程での学び、進路形成につなげていくという流れも、今後検討を要する事柄かもしれない。

教育体制の構築にとって、必要とされることとは、学生を教育体制に適応させつつ、自律的なキャリア(在学中の学生生活および卒業後の進路)形成を促進する働きかけをより充実させていくうえで、十分な物的・人的資源が確保されているか、ということである。これは、本教育改革事業のように学生のキャリア形成に関与する全学的な取組を実施しているからこそ点検しておくべきことでもあり、全学的な取組を通じて効力あるキャリア教育

を推進していくためには、欠かすことのできない視点である。

## 図 採択事業を踏まえたYNUキャリア教育の全体像



不確かな社会であるがゆえに、状況を打開していくための方途として教育の力に期待が寄せられる。キャリア教育はまさにこれに該当する営みであるといえるが、この営みに関わることで大学教育全般において何が必要とされているのか、教育に対する資源配分と関

## —現代G P採択事業の取組を踏まえて— 居郷至伸

わって、教育ではテコ入れできない事柄とは何かについても政策的、学問的な知見を踏まえながら、検討が行われるべきであろう。そして、学生のキャリア形成に働きかけていく教育実践それ自体を客観的に見つめ直し、社会状況のなかでどのような位置づけられ方をされているのか、反省的な振り返りに基づく批判的考察こそが、取組と同時に必要な事柄であるといえるだろう。